

地域デザインを議論

復建調査設計、アジア航測の東大連携講座

広島で研究体セミナー開催

復建調査設計とアジア航測が共同出資し、東京大学に創設した社会連携講座「復興デザイン研究体」のオープンニングセミナーが29日、広島市中区のメルパルク広島で開催され



た。「事前復興から考える中国地方の新たな国土・都市・地域デザイン」をテーマに近年多発するさまざまな災害の事前復興を念頭に次世代型の地域デザインについて意見交換した。東日本大震災などの事例を踏まえ、中国地方で復興デザインから地域デザインへと展開するための議論も深められた。

冒頭、来賓の等原勲中国地方整備局副局長は、「活動で得た知見を事前復興という形で生かしていきたい」と期待を示した。

研究事例発表では、中山久壽神戸学院現代社会学部社会防災学科教授が「復興まちづくりの伝承―阪神・淡路大震災20年を振り返って」、窪田亜矢東大大学院工学系研究科特任教授が「つくりあげる災害文化―大楯町赤浜集落の避難実態」、吉野大介東大復興デザイン研究体共同研究員が「苦悩するモヒリティ確保の現状と課題―陸前高田市の事例」と題して、それぞれの体験談や研究成果などを披露した。

セミナーでは、同研究体の中心的役割を担う羽藤英二東大大学院工学系研究科教授が「復興デザインから地域デザインへ」と題して基調講演した。この中で「工学分野のみならず、さまざまな学部と連携した復興に対する実践的な学問体系となっている。実際には地域に入って自治体や地元の方がたと一緒に取り組む組織で、都市・地域・コミュニティ・国土レベルで展開可能な新たな都市社会モデルを構築し、国際的に展開していく」と研究体の概要と活動内容などを説明した。

パネルディスカッションでは、藤原章正広大学院国際協力研究科教授をコーディネーターに、野田勝中国地方整備局道路部長、石田弘至島根県土木部都市計画課長、新階

寛慈愛媛大防災情報研究センター副センター長・アーバンデザイン研究部門教授、宮崎保通復建調査設計道路・地域整備部復興対策室長をパネラーに迎え、羽藤教授が加わり、セミナーのテーマである「事前復興から考える中国地方の新たな国土・都市・地域デザイン」について意見交換した。

具体的な意見として、東日本大震災でのくしの兩作戦を例に「中国地方でもそれに相応し、対応できる道路ネットワーク整備は、事前復興のスタートポイントとして極めて重要だ」とミッシングリンク解消の提案があった。このほか、「高齢化が進む中山間地区が多く存在する。こつした国土構造に対応する災害対策を考える必要がある」「地域建設業・行政の人材確保・育成が重要だ」「緊急対策から復旧・復興に至る一連の流れの中で地域をデザインしてもいい」と、地域デザインに向けた活発な議論が展開された。



建設通信新聞

2014年07月31日 014面 01版 No. 01